

あがたい 縣居翁・賀茂真淵は郷土の誇り、日本の宝

ご挨拶

賀茂真淵翁遺徳顕彰会 会長 山下智之

新春を言祝ぎ謹んでお慶びを申し上げます
旧年中は大変お世話になりました。
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

正月元日よめる

きのふ世は千さとへだつる心ちして

けふあらたまに春ぞのどけき

(昨日までの世は長い道のりを歩くということ隔てた気持ちであったが、今日新しい世を迎えたこの春は、何とすがすがしいことか。)

県居神社境内の「立志の丘」から初日の出が見えました。

真淵には、昨日までの生活を了とし、この春(正月)という時節に相応しいのんびりとしていて落ち着いた景色のように、新しい年を迎えた今日の気持ちを大切に。そして心新たな気持ちで生活していこうという思いがありました。

元日の太陽が鳥居から本殿に注いでいます。そしてセンリョウが春の寿ぎを添えてくれています。「立志の丘」から昇る朝日を仰ぎ、今年の志を立てました。何と素晴らしいことでしょうか。

昨年の研修会では、実子梅谷真滋が建立した真淵・妻(いそ)が眠っている「夫婦墓」(中沢墓苑)をお参りしました。

平成三十一年、そして改元の年を迎える今年は、真淵没後二五〇年にあたります。

当会では三月四日に「生誕祭」、十月三十日に「二五〇年祭」を齋行致します。

生誕祭・記念講演のご案内

今年は真淵没後250年にあたります。真淵の功績を称え「生誕祭」を下記の要領で齋行します。

日時 2019年3月4日(月)

生誕祭 10:00～10:30

場所 縣居神社

記念講演 10:45～11:45

※会場50名定員のため先着順とさせていただきます

場所 賀茂真淵記念館

講師 久野潤氏

(大阪観光大学国際交流学部講師)

演題 「賀茂真淵と水野忠邦
～江戸時代の再評価～」

【講師プロフィール】

昭和55年大阪生まれ。慶応義塾大学総合政策学部卒 / 京都大学法学研究科国際公共政策専攻修了
日本政治外交史研究と並行して、全国で神社や戦争経験者取材し、各メディアに記事を執筆。

賀茂真淵翁を知ろう(9) 真淵の若き頃②

浜松本陣梅谷甚三郎方良(まさよし)の女(むすめ)と結婚

最愛の妻 政長の女に先立たれた翌年享保10年(1725)29歳の時、真淵は梅谷家に養子に入った。梅谷方良の女の前夫は、真淵の母の実家の人だったようで、その後釜として急がれ、真淵の意向にはお構いなかったかもしれない。女の名は、いそ、おやう、梅子と諸説ある。

2年後真淵31歳の年に真滋(ましげ)が生まれた。真滋は、本陣を継ぎ梅谷市左衛門を名乗っている。

本陣の主人として帳場格子の中の帳付けや、出立の客に揉み手の挨拶もあったであろう。しかし、浜松宿の繁華街で多くの人に接し、本陣に泊まる地位・教養の高い人たちの

豊富な話題、諸国の情報を得て真淵も大いに啓発されたことだろう。

忙しい毎日だったが、真淵は歌会にも出て歌の勉強を続けていた。佐鳴湖畔臨江寺の雅遊に出たり、34歳の12月には、伝馬町教興寺で、安芸広島生まれの歌僧似雲と和歌を詠み交わしている。

早梅の枝につけて 春酒

色も香もしるべ待えて梅ノ花

春のこなたに先や咲らむ

浜松宿(しゅく)の本陣と梅谷(うめや)家

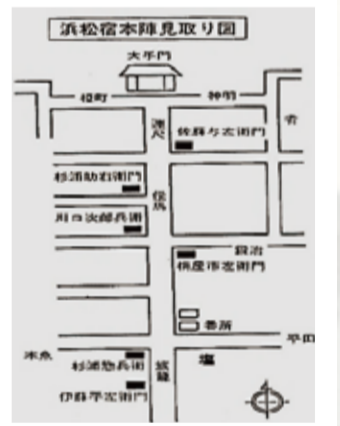
東海道の宿場の設置は、関ヶ原の戦いの翌年の慶長6年(1601)。

浜松宿には、本陣が6軒あった。大名や

幕府の役人、勅使等が宿泊した。原則として、一般の人の宿泊は許されなかった。伝馬町に3軒、旅籠町に2軒、連尺町に1軒あった。

本陣6軒は、東海道筋では箱根と浜松だけだった。本陣は門構えで玄関があり、部屋には「上段の間」があり、建坪は200坪以上もある広大な建物だったようだ。

真淵が婿入りした梅谷家は、伝馬町の杉浦家に次ぐ歴史と格式だった。



活動報告

平成三十年十一月六日 課外研修会

中区「中沢墓苑」にて、真淵の墓碑(法名 梵行院浄阿光順居士)をお詣りしました。

浜北区「万葉の森公園」では、万葉集にまつわる草木について説明を受けました。また、万葉集などの文献に基づいて再現された「万葉食」を食し、同時に思いを馳せました。

天竜区「内山真龍資料館」を訪問し、真淵と真龍の関わりや真龍の業績などについて学芸員 原昌弘氏より説明を受けました。



賀茂真淵墓碑前にて



内山真龍の事について説明を受ける

平成三十一年 元日 新年祭

零時三十分より新年祭が齋行されました。今年も立志の丘から感動的な初日の出を見ることができました。



新年祭の様子



立志の丘からの初日の出